

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 25 年 2 月 15 日)

【一三】子曰く、^{しいわ}訟^{うったえ}を聴くことは吾^{われ}猶^{なほ}人のごとし。必ずや^{かなら}訟^{うったえ}無^なからしめんか。

孔子が言うには、訴訟の処理をする時には、私も他の人と変わりはない。むしろ訴訟が起らない仕組みを作る努力を私にする。

【一四】子張^{しちよう}政^{まつりごと}を問う。子曰く、之^{これ}に居^{おり}て倦^うこと無^なく、之^{これ}を行^{おこな}うに忠^{ちゆう}を以^{もつ}てすと。

子張が政治を行うための心構えについて質問しました。孔子が 60 歳代後半で、子張は 20 歳代でかなり歳の差があります。孔子は「まだ若いから飽きないように努力して一生懸命やりなさい。国民に対して政治を実行する上においては、誠意を持ってことにあたりなさい」と孔子が答えました。

現代風にいけますと、今回の安倍さんが出たことによって 2 カ月かそこらで日本の雰囲気ガラッと変わり、世界が日本をみる見方が変わって、外交がガラッと変わりました。今の日本はトップが変わるとこれだけ変わるのかと私は感じます。「忠を以てす」とは、安倍さんは誠意を持ってことにあたるという事で、我々は判断をすれば良いのだろうと感じます。

【一五】子曰く、博^{ひろ}く文^{ぶん}を学^{まな}び、之^{これ}を約^{やく}するに礼^{れい}を以^{もつ}てせば、亦^{また}以^{もつ}て畔^{そむ}かざるべきかな。

孔子が言うには、学問を志す者はたくさんの文献をよく読みなさい。そうすることで学びが深まり、学んだものを纏める時は、礼という理念で統一すればよらしい。そうすれば、正しい道から外れはしない。

学問を志す人にとって、たくさんの文献を読むというのは当たり前だけれども、纏める時にどのように纏めると良いかという判断基準が出ています。ちなみに私は木内信胤先生を生涯の師匠と仰いでおりまして、その先生の研究をしようと思い、木内信胤研究会を発足させようと考えています。狙いは日本の近未来、日本が生き残るために必要なものは何か。それらをかなり信胤先生は残しておられますので、ありとあらゆる著作物とテープと関係資料を再度確認し本として 1 冊に纏めようと考えています。あとは木内信胤語録と別の資料集を作りたいと考えています。「約するに礼を以てせば」ということで、一つのもの

の考え方で、色々な問題点を整理して、一つのものに纏めることを進める。全部やっていたら、日本が正しい道から外れないで済むことができるだろうと思いつつ進めています。この文章でそのように感じました。

【一六】子曰く、君子は人の美を成し、人の悪を成さず。小人は是に反す。

立派な人間は、人が良いことをしようとすれば応援をして助け、良いことを達成させようとするものであり、人が悪いことをしている時は、戒めて悪事をさせないようにするものだ。

立派な人物に反して心の狭い小さな人物はことごとく君子が行うことと正反対のことをする。もともと心の狭い小さい人間というものは、他人が良いことをしようとすると足を引っ張ろうと考える。足を引っ張ることによって自分が浮上して良い気持ちになる。人の良いことを見たら妨害をするし、人が悪いことをすればどんどんやらせようとするものだと解釈をすれば良いでしょう。

現代に置きかえて見れば、意外と立派な人物は多くいます。例えば、あしながおじさんのような動きもそうですし、3・11の時のボランティア活動であるとか、寄付金の集まり具合であるとか、そのような動きを見るとなかなか日本人も捨てたものではないという感じがします。しかし同じ人間が、小人の動きも同時に行うものです。人というものは良いこともするし悪いこともする。何故それが起きるかについては、自分自身の心の中をよく分析せねばならないと考えます。出来得る限り、良いことをして悪いことをしないという習慣を作っていくのが今の時代には肝要でしょう。人の振り見て我が振り直せというがごとく、人の上に立つものはよくよくその辺りを見ていかなければならないと考えます。